北海道の山 2016/7/16/Sat-7/19/Tue

国後が見える山・羅臼岳 1,661m 沢筋を涼しく登る・斜里岳 1,535.8m 活火山・雌阿寒岳 1,499m と阿寒富士 1,475.8m

山の虫クレマントクラブ(略称 YMCC) 川原健一 同行:川原薫



一昨年、幌尻岳、トムラウシ山、十勝岳、大雪・旭岳の北海道4山を登った。昨年、引き続き羅臼岳、斜里岳、雌阿寒岳、後方羊蹄山を計画したが、思わぬ病のため叶わなかった。一時はずいぶん落ち込み、北海道の山に行きたい気は冷めたが、時間の経過とともに気を取り直し、本年、また4山を登ることにした。前回の4山はそれぞれ日帰り山行だったので、本年も休みを節約すべく、4日で4山を登る計画にした。

自宅からだと関空から新千歳空港への早い便に間に合わないので、前夜、阪神尼崎駅前のホテルをとり、近くに住む息子夫婦と駅前の居酒屋で一杯飲み、景気付けを行った。

新千歳空港から登山口の羅臼・岩尾別温 泉までは408Km、6時間30分ほどかかる。 空港からレンタカー会社まで送迎バスに乗 り、コンパクトカーを借りて、まずは千歳 市街へ出て買い出し。食料と水を購入。北 海道ならではの新鮮なホタテのむき身があ まりにも見事だったので昼食に生食用を購 入、堪能した。家庭用カセットコンロのガ スも買いたいが、イオンでは3本セットし か売っていない。セイコマートで1本を手 に入れることができた。

トマムの辺りのリゾート開発の様に驚き ながら足寄まで高速道路を利用。知床国道 に至るとオホーツク海がぐっと迫ってきた。 子供の頃、セルロイドの下敷きに描かれた 日本地図の右上にオホーツク海と書かれて いた場所が今、ここ北海道の地の果ての眼 前にあり感慨深い。

ずいぶん走った頃、トンネルの手前で右 手に流れ落ちる滝を発見。引き返して見に 行くと、なんとオシンコシンの滝だった。 映像では見ていたが、当てにもしていなか った滝が突然目の前に現れたので飛び上がって喜ぶ。この辺りともなると海岸沿いに 平気で羆が出るようなので、夕方薄暗くな る頃でもあり、恐る恐る散策道を登ってい き、サッサと写真を撮って引き返した。

トンネルの先にウトロの町があり、そこに道の駅・うとろシリエトクがあったので今宵の車中泊の宿とする。ちなみにシリエトク sir-etok とはアイヌ語で陸地・大地 sir の先端 etok を意味し、大地の突端・行き詰まりを表す言葉という。知床の語源であろうことが窺える。薄暗くなった駐車場に車を入れると、何やら尾っぽの長い動物が歩いている。あっ、キタキツネ!連れ合いが感動の声を上げた。

関空 08:30 10:25 新千歳空港 レンタカー屋 12:00 19:30 道の駅・シリエトク

羅臼岳 7月16日(土) 晴れ

道の駅・シリエトクを後にし、岩尾別温泉に向かう。ここにある宿の名前がホテル・地の涯。インパクトのあるロマン溢れる名だ。思わず口ずさむ。「♪ここ~は地の果~てアルジェリア(^^♪」

朝から霧が出て視界が悪い。早朝、夕刻、雨天時は羆遭遇率が高いと聞く。しかも、登山口の木下小屋から稜線に至る間は頻繁に羆が目撃される所らしい。そんなことはまったく気にしていないような様子で、次々とザックを背負った人が登山口を発つ。天気は悪くないようなので我々も登ることにする。

標高400m付近で羆の真新しい糞を発見、 と言うよりも登山道上にそれはあるのです ぐ目についた。直径30cm程、放り立ての ホヤホヤだ。一昨年の幌尻でも見たが、こ れはそれよりもかなり大きい。まあ、気に しても仕方がない。

オホーツク展望台からは霧のため海は望めず。途中水場が2か所ほどあるが通過。 エキノコックス問題があり、北海道の山の 生水は飲めない。極楽平はブッシュ、灌木、 喬木帯の平坦地であり、展望はない。大沢 で雪渓を2か所ほど通過。エゾコザクラの 群落があちこちに見られる。大沢の勾配が 落ちるとやがて羅臼平に着いた。



二つの広場の東側の方に 1 時間半ほど前に熊がいた。頂上直下、羅臼岳から下って来る若者が情報をくれる、がもらってもどうしようもない。

羅臼岳山頂は好天に恵まれ、全方位の展望が開ける。東北東の海上遠く95.6km先、遥か国後島の爺爺岳(チャチャダケ)1,822mのピークが雲間に浮かんだ。これには地元札幌から来た岳人もたいそう感激していた。

岩尾別温泉登山口 05:20 06:40 極楽平 07:04 仙人坂 07:45 大谷入口 08:15 羅臼平 09:00 羅臼岳 09:30 12:09 登山口(ホテル地の涯)



下山後、時間があるので知床自然センターを見学。近くの海岸まで散策すると、海に落ちるフレベの滝を見られるとのことだったが、たった今羆が出たとのことで、30

秒前に通行止めされてしまった。ならばと 知床五湖まで足を延ばし、二湖を散策、こ こも羆遭遇率が高いのでガイドなしでは残 り三湖は通行禁止とのことだった。

ウトロ温泉夕陽台の湯に浸かりウトロを後にする。斜里岳登山口清岳荘まで 74km。清岳壮は林道の終点にある(地理院地図)無人避難小屋と認識していたが、実際は手前の舗装道路の終点にあり、有人の立派な小屋であった。トイレを借り(協力金 100円)、駐車場(駐車料金 100 円)を拝借し、今宵も車中泊。

斜里岳 7月17日(日) 晴れ

清岳荘前の登山口から平たい尾根を越え、 林道に下り、林道の終点(羆注意の看板あり)から再び山道となる。

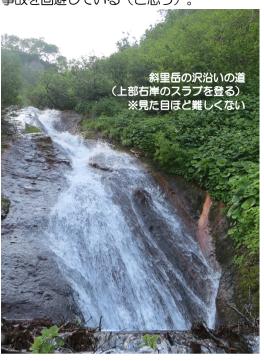


しばらく行くと沢沿いの道となり、以後、 稜線の鞍部まで、おおむね沢沿いの道を歩 く。沢沿いなので当然涼しく、時には流れ に触れながら歩く。滝や滑が連続し、退屈 しない登山道だ。水が切れても稜線直前ま で木陰があり、涼しく、一気に鞍部まで登 り詰める。

鞍部から頂上までは一転、展望の登山道。 今日も全方位を望んで登る。一人下ってくる登山者。昨日羅臼岳で熊情報をくれた人だ。今日は熊は出ていないとのこと。山頂は朝早い内にもかかわらず多くの登山者があり、展望を楽しんでいる。しかし、北側からガスが掛かり、そこそこ展望を楽しめたので長居をせず下山にかかる。

標高1,230mで登路から離れ、熊見峠へ向かう道に入る。斜里岳の登山道は850mから1,230mの間の沢筋が登路、1,230mから熊見峠を経て再び850mに至るコースを降

路と分け、混雑及び下山時の沢筋での滑落 事故を回避している(と思う)。



熊見峠とはやや恐ろしい地名だが、ここにきて熊と遭遇しないことに大分慣れてきた。ちなみに遭遇率は統計によると約3%らしい。清岳荘Pで声をかけてきた福岡の男性にそれを教えてやると、それなら安心して登れる、と胸をなでおろしていた。彼は定年後、友人の誘いで10年も余計に働き、やっと70で自由になって彷徨している、と宣う。一生働くか、どこかで見切りをつけるか、辞めても続けても、気が付いた時には遅いのがだいたい世の常だが、さて私はどうしたものか!?

さっさと下山すればよいのだが、せっかくここまで来たのだからと、TVの百名山番組で紹介された竜神ノ池に寄り道。雪渓の先にある美しい湧き水の池を堪能した。熊見峠からは熊を見ないうちにと一気に駆け下り、昼前に清岳荘に下山した。

清岳荘 05:05 05:50 二股 06:15 方丈の滝 07:15 注連縄地点 07:50 稜線鞍部 08:10 斜里岳 08:30 09:00 1,230分岐 09:05 竜神ノ池 09:50 熊見峠 10:20 二股 11:00 清岳荘

清岳荘前の四阿のテーブルで昼食を摂っていると、地元の岳人達が同席を求めてきた。話が弾み、道内の山々の地元ならではの情報を教えてくれる。その中で、利尻山は山巓の崩壊激しく、近いうちに入山禁止になるのでは、という話にはショックを受けた。では近々登ることにしましょう、8月最終週末に山頂で待っていますよ、お互い約束にもならない言葉を交わし、別れたのだった。

今回のコンパクトレンタカーでの車中2 連泊はさすがに辛く、阿寒温泉に宿を取る ことにした。ホテルの前の阿寒湖の渚から は、湖水越しに雄阿寒岳の雄姿が望めた。 この晩はゆっくりと阿寒温泉に浸かり、山 行の疲れをしばし癒すことができた。

雌阿寒岳と阿寒富士

7月18日(月)霧

霧の中、雌阿寒岳に向かう。雌阿寒温泉の駐車場に車を停め、身支度し、出発。樹林帯の抜け際から這松の大木が目立つ。100年で僅かしか育たないと聞くその幹回りなのに見事な太さだ。下山する単独行の女性とすれ違う。あれ、昨日斜里岳に居た人ぢゃないか?雌阿寒岳で99座を登ったとのこと。100座目は家族で美ヶ原に登るのだという。記念の山を家族全員で登ることなどなかなかできはしない。楽しみですね。彼女はにこやかに下って行った。

雨粒があるので雨具をつける。御鉢を左 手へ行くと山頂に至る。霧の中、風の音の 中で水蒸気が噴出される音がゴウゴウと烈 しく鳴っている。恐ろしいほどの音だ。だ だっ広い山頂で記念撮影し、そそくさと去 る。阿寒富士を踏んでオンネトーへ下りた い。鞍部から登り返す道は火山礫のザレ場 だ。荒涼とした中に見事なピンクの花が咲 いていた。駒草だ。登り来る途中で見たも のよりも、ここの花は新鮮でシャンとして いる。阿寒富士からも残念ながら展望は望 めず、写真を撮って頂上を後にした。オン ネトーは曇り空では美しい水の色は出ず、 僅かに雰囲気の残る場所を求め、キャンプ 場から湖畔を左回りに巡りながら駐車場まで歩いた。

雌阿寒温泉 PO6:00 08:05 雌阿寒岳 09:00 阿寒富士 09:10 10:40 オンネトーキャンプ場 オンネトー散策



せっかくだから雌阿寒温泉にも浸かろうとすると、野中温泉の看板を付けた二つの建物。何が違うのかと連れ合いが問うと、経営が違う、と亭主の不愛想な返事。300円の入浴料に愛想の悪さは我慢して入ることにした。極めて質素で湯屋カランもない。ただ浸かるだけの温泉だったが、硫黄臭く、硫化水素タップリの危ないほどの温泉であった。連れ合いがまだ上らないので、おかみさんと雑談。ここは霧島の新燃温泉みたいだと話すと、なんと先ほどの愛想無しの亭主が硫化水素の件で新燃温泉を見に行ったのだとのこと。すると忽ち亭主も打ち解けて、温泉談議に花が咲いたのだった。

雌阿寒温泉を後にし、最後の山・後方羊蹄山に向かう。足寄のスーパーで買い出し、高速に乗る。ナビの勧めるまま、白老にで道央道を降りる。北上し、留寿都へ向かう山中で暮れ、雨が激しくなる。明日は大雨、濃霧、雷の予想。雨、霧は何とかなるが雷はどうしようもない。留寿都リゾートで雨中の花火大会を楽しみ、道の駅で車中泊。

翌19日、羊蹄山登山口で好天を待ったが状況変わらず、遂にあきらめて次回の機会とした。その後、昭和新山、洞爺湖、室蘭八景、支笏湖を巡り、初日以来お預けだった海鮮丼を堪能し、その日の内に帰阪した。

航空券63,600円/2人(往復) ルンタカー28,0000円(保険共) がリルン7,000円(走行距離1,250km)